

WEB 経友会誌 第16号

2019年 秋号

目 次

1. 巻頭言 『退職にあたり』 飯島 淳一 教授
2. 寄稿 『神々は細部に宿る』 舟橋 幸信 様
(1958年 木暮研 修士修了)
3. 2019年 総会報告 川崎 保美 様
(経友会会長、1975年真壁研卒)
4. 編集後記 安田 健一郎
(編集委員長、1981年早川研卒)
5. 事務局からのお知らせ 経友会の入会手続きとご寄付について

退職にあたり

飯島淳一

はじめに

早いもので、2020年3月をもって、定年のため本学を「卒業」することになりました。1982年4月に、総合理工学研究科のシステム科学専攻（当時）高原康彦先生（当時教授、現在本学名誉教授）の研究室の助手として着任してから、あっという間に40年ほどが経ち、今年度が最後のお勤めとなりました。経友会には特別会員として、1989年からお仲間に入れていただいておりますので、30年あまりのお付き合いになります。

ここでは余興として、また、皆様の今後の活動のヒントになることがあればと思い、私の40年の半生を振り返らせていただきます。



（筆者近影）

経歴（修士課程まで）

さて私は、1973年3月に北海道立札幌北高を卒業し、その年の4月に本学の4類に入学しました。入学時のオリエンテーションで最初に言葉を交わしたのは、桑島正治君（現在、MONEXグループ取締役副会長）でした。

2年生からは制御工学科（機械系）に進みました。1976年4月からの卒業研究では、経営工学科の高原研に所属し、それから、経営工学の皆様とお付き合いすることになり、今日に至っています。修士1年生からは高原先生が本務としていらっしゃった総合理工学研究科のシステム科学専攻に所属し、すずかけ台キャンパスにしばらくおりました。当時は故松田武彦先生が教授、高原先生が助教授ということで、松田・高原研として、様々な活動を合同で行っていました。4年生から修士にかけての高原研の同期は、清田三紀雄君と桑田康男君です。松田研の修士からの同期は、永瀬 悟君、中村 毅君、佐藤 慎一君で、4年生で松田研を卒業した土井隆之君も含め、今でも7人で会食をしたり、



旅行をしたりしています。今年の11月には、清田君のいる熊本に、復興応援ツアーに行くことになっています。

（左から、土井君、中村君、松田先生奥様、清田君、佐藤君、筆者、永瀬君）

松田・高原研に所属できたことは、私のその後の人生を左右した大きな岐路でした。昭和56年から4年間本学学長を務められた松田武彦先生は、誰もがその人柄に魅かれる大先生で、理論派の高原先生とは絶妙なコンビでした。夏は館山に海水浴、秋は紅葉を賞で温泉旅行、冬になると1月には志賀高原の熊の湯、3月には八方尾根へスキー旅行にと、両研究室合同で出かけていました。松田先生は1999年にお亡くなりになりましたが、奥様がご健在です。



(冬のスキー旅行)

この6月に、「松田先生の奥様と高原先生ご夫妻を囲む会」が開かれたのですが、筆頭幹事をされた居波治行先輩のご活躍もあって40名以上の同窓生が集まりました。

経歴（博士課程から）

さて、博士課程在学中の1980年の秋から、私はポーランドのブロッツワフ工科大学に留学しました。当時専門としていた数理的システム理論の研究拠点がブロッツワフ工科大学にあり、故 Jerzy Jaron 教授をはじめとして、Witold Jacak, 故 Ireneusz Sierocki らの若手の助手、そして、同期の Jerzy Rosenblit（呼称、Jurek）などがシステム論（Cybernetics）の研究をしておりました。1980年9月30日の夜10時にブロッツワフ駅でこの3人に会った時のことは、今でも忘れられません。その夜は学生寮に泊まったのですが、Zubrowka というウォッカを1本いただき、「これを飲んで寝ろ」と言われました。ボトルの中に草が一本入っていたので、「まったく東ヨーロッパは品質管理がなってないな」と思ったところ、あとで、バイソンが食べる草を入れているのが特徴のウォッカだとわかりました。先入観とは恐ろしいものです。

当時の東欧圏はいろいろなものが配給制で、みな配給切符を分け合って暮らしていました。私はドルも少し持って行ったので、ドルショップ（PEWEX）と呼ばれるところで、ドルでいろいろなものを買っていましたが、食料品はなかなか手に入らず、玉ねぎを水栽培して、その芽の緑の部分を集め、日本から送ってもらった味噌と現地で入手したコメをコッヘルに入れて、ガスストーブで煮ておかゆを作り、そこに入れて食べていました。また、3か月に一度程度、西ベルリンまで電車を出かけて、和食を食べるなどしてリフレッシュしていました。

Jaron 先生はトポロジーで有名な Kazimierz Kuratowski のお弟子さんで、超がつくほど抽象的な数学を教えており、とても面白かったのを覚えています。

当時のポーランドは、Lech Wałęsa（1983年にノーベル平和賞受賞）率いる連帯（Solidarność）が民主化を進めようとしてい



(Jaron 先生)

るときで、そうこうするうちに、1981年になってから、ソ連（当時）が侵攻するといううわさが経ち、そのうち戒厳令が敷かれるのではないかということになりました。そこで1981年9月に、Jaron先生のグループと懇意にしていた、オーストリアリンツ大学のFranz Picher教授のところに身を寄せることにしました。

実際、戒厳令はその年の12月に敷かれたので、よい選択だったと思っています。

リンツ大学には1982年2月まで留学し、1982年4月から本学総合理工学研究科（システム科学専攻）の助手になりました。その

後1989年3月まで、すずかけ台キャンパスで助手を勤めた後工学部（経営工学科）の助手となって、大岡山キャンパスに戻り、1990年11月に同助教授となりました。そして、1996年に社会理工学研究科が設立されるタイミングで、その直前に定年退職され

た高原先生の後を受けて、教授となりました。その後、2016年の教育改革後に工学院（経営工学系）に移り、今日に至っています。



（Pichler 先生）

研究

次に、研究について少しお話しをさせていただきます。1年生から所属した心理学研究会で、ひょんなことからエントロピーについて興味を持ち、熱力学的エントロピー情報論的エントロピーの関係などを調べていたこともあり、卒業研究では、エントロピーを使った数理モデルを作って、David Riesmanの提案した、「他人指向性」の地域差について

研究しました。制御工学科の卒業論文です。テーマはなんでもありの時代でした。

修士論文では、「自己組織系の定式化」をテーマに選び、自己組織化が起こる条件を数理的に定式化するという論文を書きました。博士論文では、一転して数理的システム理論のテーマである、システムの分解と合成についての代数的な理論構築を行いました。助手になってからの38年間、研究テーマもいろいろ変遷しました。当初は、「数理的システム理論」という分野で数理的な議論をし、計測自動制御学会などで活動していましたが、実務から遠い理論的な研究があまり評価されなくなったこともあり、研究テーマを「情報システム学」にシフトし、意思決定支援システム（DSS）やワークフローシステム、ビジネスプロセスなどを研究してきました。その関係で、1992年4月に松田先生や高原先生、宮川公男先生（当時、一橋大学）を中心に行われた日本経営情報学会（現在の経営情報学会）設立のお手伝いをしたりしました。

2000年に入ってから、IT投資対効果にテーマを変えて、企業でのICTの利活用を効果的に進める要因について研究しはじめ、ここ10年は、エンタープライズ・エンジニアリングが研究テーマとなっています。2014年から始まった、デザイン思考をベースとしたアントレプレナー育成のCBEC（Cross-Border Entrepreneur Cultivating）プロジェクトで統括を勤めたのをきっかけに、最近では「デザイン経営」について、いろ

いろ調べています。

教育

次に教育について少しお話しさせていただきます。1982年4月に助手になってから助教授になるまでは、高原研のゼミのお手伝いをしていました。特に、George F. Simmons の *Introduction to Topology and Modern Analysis* のゼミや、George Graetzer の *Universal Algebra* のゼミなどを担当していました。助教授になってからは、授業も担当するようになり、高原先生の後を受けて、『情報システム基礎』で 8086 や COMET、COMET II のシミュレーションの授業を担当したり、『システム理論』や『システム思考』の講義を担当していました。自前の研究室も持たせていただき、高原・飯島研ということで、松田・高原研の伝統を受け継いで、海水浴やスキー合宿などを引き続きしておりました。毎週金曜日のゼミの後には、研究室の学生諸君と情報交換会を開催していました。



(高原先生との共著)

高原先生が退職され、2002年に妹尾 大先生が准教授で着任されてからは、飯島・妹尾研ということで、経営工学科における情報システム学分野の担当をし、現在に至っています。

このころは『企業実態論』という名前で、当時 SONY で役員をされていた井原勝美先輩（高原研）や当時 NTTDoCoMo にいらっしゃった夏野 剛さんをお願いして、SONY や NTTDoCoMo という会社をいろいろな観点で“斬る”という授業を開いたり、『システム構造論』という題目で、抽象数学の授業を開いたりしました。もっとも、この授業はよくわからないということで評判悪かったですけど。



むすび

これまでの経営工学専攻とのかかわりの中では、日本政府とエジプト政府が共同で設立した E-JUST (Egypt-Japan University of Science and Technology) にある経営工学専攻の支援を 2010 年から始めたり、2014 年からは機械系などの他学科と一緒にアントレプレナー育成のプロジェクトを始めたりと、学内でいろいろな活動に首を突っ込んで、経営工学科の存在のアピールを、それなりにしてきたつもりです。後に続く皆さんにも、ぜひ工学系の中に埋没しないような積極的な活動を期待いたします。

40年近くに及ぶ経営工学科とのお付き合いも今年度限りとなりますが、今後の経営工学科の益々のご発展を祈念して、この稿を締めくくりとしたいと思います

神々は細部に宿る

舟橋 幸信



「蝶々が羽ばたけば嵐が起こる」とまでは申しませんが、ビジネスの世界でも些細な事が大きな問題に発展することがあります。金銭的な損害だけではなく、組織の評価やブランドイメージも損なわれます。そこで思い出されるのが「神は細部に宿る」でしょう。ここでは文字に関して些細な細部を纏めてみました。高尚な論文や寄稿が多い中で、下世話で良いのかと些か心配ですが…。

武蔵野市に住民登録を済ませてから暫くして、尋ねたい事があって市役所に行った。氏名を述べたところ「アンタはここに住んでいない」と乱暴な言われ方をされた。私は「フナハシ」と言ったが、貴方は「フナバシ」と「バ」を入力したのではないかと申し上げると、やり直して「あー、いたいた」との返事だった。これがお役所だ。

今迄は「ハ」と「バ」の言い違いを気にしなかったが、帰宅してから所持しているカードや口座のフリガナを調べたところ、一つの病院のが「バ」になっていた。診察カードを所持せず緊急で病院へ搬送された時、名前を言ってもカルテが出てこなくては、命に関わる問題なので、早速、修正して貰った。お役所に感謝すべきかもしれない。

iPhone7 が発売されて SUICA が使用できるようになり、Apple Watch をシリーズ2に買い替え、早速 SUICA を購入すべく駅へ行った。その際に、生年月日と性別及び氏名のカタカナでの記入を求められた。その後、SUICA の残高が減少したので、2枚目の SUICA を購入したら、氏名が違うので読込めないと iPhone7 が断わりのコメントを出してきた。最初の1枚目の購入の際、窓口の係員が「ハ」を「バ」に間違えていたのが原因だった。駅に赴き最初のカードの氏名の訂正を求めたが、窓口では個人情報なので修正できないから、購入者がコールセンターへ電話をして修正してくれと、お役所のような返事だった。それが嫌なら氏名の「ハ」を「バ」にしたらどうかと、とんでもないことを言われた。

仕方なく電話をしたが、30分間はお話中、やっと繋がったら「混んでいるから掛け直すか、このまま待つか？」とのメッセージを30分聞かされて、やっと担当者が出てきた。

基本情報を修正するのは購入者が所有する iPhone7 でやれと言われた。「バ」を「ハ」に直すのに、先ずローマ字入力でひらがなの「は」を出してから、カタカナの「ハ」を選んだのだが、数字の「八」ではないかとフツ思いそれを呟くと、担当者はそれをモニターしていて、間違いなくカタカナの「ハ」だと言うのだ。これで終わりかと思いきや、次に本人認証の問題に及んだ。以下はオープンにすべきことではないが、昔からある「山」と問えば「谷」と応える合言葉で、本人認証の為の設問で「好きな山」の問いに「大岡山」と応えたが、その入力の際に「お」が 3 個も続くのかと独り言を呟いたら、即座に「大岡山」になっていますと返事が来た。やはり合言葉もモニターしていた訳で、これでは駄目だと思った。この様な下らないことをやっていたので、この「ハ」の修正に30分かかり、貴重な時間を合計1時間半も無駄にさせられた。しかも電話代は当方負担だ。これは筆者一人の問題ではない、大勢の人が同じように待たされているのだ。

ちなみに、アップルはネット上で電話の希望日時を申し込むと、先方からその時刻に電話をしてきてくれる。少しは他社の良いところを見習って欲しい。

ある日、下車して改札を通過した際に、ビーとブザーが鳴り駅員のところに行けとの指示が出た。駅員は乗車の際の改札通過の時に読み取っていないと言うのだ。しかし読み取らなければ改札を通れる筈がないのだが、駅員は清算してこれで問題なしと、得意顔で言った。

ところが、よく調べてみると最初に改札を通過した際は、1枚目の SUICA で読み取り、下車した際の改札では、2枚目の SUICA を読み取ろうとした為に、ブザーが鳴ったのだと判った。 次回の乗車の際に切符を買って乗車し、下車の際に、この旨を駅員に説明して、1枚目の SUICA を清算して貰った。クレジットカードが届いてからは、これで SUICA にチャージをするようになったので、駅で購入する必要はなくなり、今は SUICA をエクスプレスカードに指定して問題は起こらなくなったが、駅員のデジタルリテラシーはまだ低い。

余談だが、Apple Watch で改札を通る際は、センサーが改札の右側にあるので、腕時計を左手に付けていると改札が通り難い。それで設定を右腕仕様に変更し、バンドも上下を入れ替えて右手

首に付けるようにした。従来の腕時計は総て左腕で使用するように設計されており、この数百年の伝統をアップルは打ち破り、右腕での使用を可能にした。しかも金属バンドの長さの調節も時計店に頼らず、購入者自身が簡単に出来るようにし、消費者が好きなバンドを選び、自分でバンドの交換も出来るようにしたので、腕時計のネット販売を容易にした。アップルの腕時計の売上高は発売後僅か4年で年商1兆円に達し、日本の時計メーカー3社の腕時計の売上合計を抜き去った。日本には大岡山と云う山はあっても、シリコンバレーと云う谷がないので、日本の低成長の現実を見せつけられているようだ。

話を戻して、今度は土地の登記の話のだが、共同で土地を購入した際に、権利書に「**船**橋幸信」と記載されていた。登記の際、持ち分が少ないので権利書を見ておらず、気が付かなかったのだが、その土地を売却する段になって「**舟**橋幸信」でなくては売却できないことが判った。売却を可能にするには、不在籍証明書を市役所から貰ってこいとのことだ。市役所では何に使うのか質問されたが「船橋幸信」と言う人物が不在であることを証明するものを発行して貰った。万が一「船橋幸信」なる人物が存在していたら、どうなるのか気になった。余計なことだが、「鈴木一**郎**」などは「鈴木一**朗**」と間違われ、似た名前の人がいそうだから、絶対に起こらないとは言えないだろう。

年賀状の住所氏名にパソコンを使い、プリンターで印刷する人が増えてから、「舟」を「船」に間違える人も増えてきた。今迄は、これも気にしていなかったが、年寄りほうさいと言われても、現役の若い人達には間違いを指摘する事にしている。相手の氏名を間違えるのは失礼だし、公的な書類では気にしなくてはならない事だからだ。

印鑑のシャチハタの会長は性が同じ舟橋だが、会長の話では「渡辺」の「辺」は印鑑の場合、100種類以上あるそうだ。パソコンのフォントには「辺」「邊」「邊」の3種類くらいしかないのだが、お役所は「舟」の場合と違って「辺」も「邊」も全部同じにしているのだろう。そうでなくては「辺さん」は心配だ。

以前、年金の名寄せが不完全なので大騒ぎになった。それなのに今でも住所の最後に建物の名称を入れる市がある。住所にアパートやマンションの名称がなくても郵便物は届くのに、住民票の住所に余計なものを入れているのだ。建物の名称は長いので、それを省略するようになる。その結果、同じ住所なのに2つの住所ができて、名寄せができずに別人になってしまう。そのようなお役所は、お節介なことに、他の市の住所にも勝手に建物の名称を付けた住所を作っている。これが将来どのような不具合をもたらすかも想定していない。職員に「ほふり」を知っている？と尋ねたが知る由もない。案の定、証券保管振替機構で名寄せができず、上場企業の1社から2通の株主総会の案内状や決算資料が届いた。

一度だけ ATM から振込をしたことがあるが、何度、試みても振り込めないのに、銀行員を呼んできて原因を調べて貰った。結局、口座名の中に「第2」と言う文字が含まれていて、数字の2も「イロハニ」の「ニ」の振り仮名を使い「ダイ2」ではダメで「ダイニ」と入力しなければならないと判った。この

間に ATM の前には大勢の列ができて迷惑をかけてしまった。帰り際、銀行員に算用数字に振り仮名を使うのなら、手書きの場合の金額に振り仮名を付けた方が、改ざん防止に役立つのではないかと嫌みを言ったけど、銀行員は何を言われているのか判らなかったようだ。

オンライン証券では ID や仮のパスワードを知らせてくる時、アルファベットと数字にフリガナを付けてくるところがあるが、これが親切と言うものだろう。数字の「0」と、英語の「O」とは間違い易いし、数字の「1」とアルファベットの小文字のエル「l」と大文字のアイ「I」は取り違え易いからだ。アップルの場合、当社はアルファベットの「O」は使用していないと解説を付けている。

京都大学のノーベル賞受賞者の山中教授の片腕で敏腕な高橋和利氏が「iPS 細胞」の「i」を、アップルの「iPod」のように世界に広まるようにと、小文字の「i」にしたと聞き、「iPod」より遙か先に、筆者の現役時代に「Impact Dot Printer」を「iDP」とし、小文字を使用したのだが、お株をとられてしまった。iDP-560 はクレジットカードのエンボス文字を用紙に転記するインプリンタを市場から駆逐した由緒ある製品だったのだが…。

その「iDP-560」の場合は、アルファベットの小文字のアイ「i」ではなく、大文字のアイ「I」にすると、小文字のエル「l」や数字のイチ「1」と間違い易く、信用状(L/C)でディスクレ(discrepancy)の口実を与えるので、本来はそれを避けたいからだが、見た目も小文字の方が格好良い。アップルは「iPod」「iPhone」「iMovie」等々、総てに小文字の「i」を使用している。何故、ジョブズ氏は小文字の「i」を採用したのかは知らないが、間違いを避けることを含めて、デザイン的な面からだろう。

ディスクレは信用状と船積書類との内容が一致していないことを意味しているのだが、このディスクレは億単位の損害に結び付くことがある。商品の名称をアルファベットの大文字のアイ「I」にして **IDP-560** にしてしまうと、信用状に数字の1の **IDP-560** と記載されているのを見損じて信用状の修正依頼を怠り、その結果、代金を支払って貰えなくなる事がある。相手は **IDP-560** を注文し、信用状にそのように記載しているのだから、**IDP-560** という商品ではダメだと言ってくるのだ。そして今までは信用状が **IDP-560** でも信用状の修正なしで商品を引き取ってくれたので油断をしていると、バイヤーは在庫の増大を見て、キャンセルや値引きの要求がしたくなると、この種の手法を使うのだからタチが悪い。バイヤー指定のブランドだと転売もできない。製造してしまったので引き取ってくれと言え、億単位の値引きをさせられることになる。だから信用状は信用してはいけない、罠が仕掛けられていることがあるからだ。これで倒産した例もある。成功談は聞かせて貰えるが余り役に立たない。失敗談は恥ずかしいし、コストがかかっているのに、なかなか教えて貰えないが、この失敗談の方が遥かに役に立つ。

某社の貿易部門で「今の価格」と「新しい価格」の英語を書き間違えて、二千万円を超える損害を受けた。英語の「now」と「new」の「o」と「e」を間違えた訳だ。これは価格表に今ならバージョンを入れておけば良いのだが、昔だったので価格表に日付を入れて区別をしておかないから、このような

間違いを起こして損害を受けた。

ある金融機関で、住所の「吉祥寺本町」にフリガナを書いてくれと言われた。貴方も地元なのだから読み方は判るでしょうと言いながら「キチジョージホンチョー」と書いたところ、「キチジョウジホンチョウ」と書くのが正しいのだと直された。正しい書き方を知っているのなら、そちらで書いてくれれば良いのと言いながら、ところで、メジャーの野球選手は「イチロー」と書いているが、あれはどうなるのか？と尋ねたところ、この人は馬鹿ではないかと軽蔑した眼差しで見られてしまった。

母校の東京工業大学に寄附をするのでカタカナでの口座名を尋ねたところ、「コクリツダイガクホウジン トウキョウコウギョウダイガクキキン」との回答だった。幾らなんでも長過ぎて入力を間違えるから、短いのが利用者には便利だと提案したが、これがなかなか解決してもらえない。結局、改善されるまで寄付は中止した。想像するに銀行振込を歓迎しないのは、寄付の申し込みと振込の突き合わせが面倒だからだろう、対策はあるのにそれも面倒らしい、これでは寄付は集まらない。

京都大学の場合は同じ国立大学でも即座に対応してくれた。実はネットで振込をする場合、新生銀行では入力は半角カタカナと指定されていて、預金残高により月に何回かの手数料が無料になるのだが、口座番号が正しくても口座名が違うと振込ができず、それなのに、無料の手数料が一回分と数えられてしまう。

京都大学は対応策を説明してくれた。ATM を使用する場合は口座番号を入力すると口座名義がATM の画面に自動的に表示されるので、これを変える訳にはいかないから、副として短い名義を新設したそうだ。更に京都は読み難い地名が多いので、支店名にもフリガナを表示してくれた。何しろ熱心だ。

国立研究開発法人 国立国際医療研究センターの場合も同じ国立で名称がやたらと長い。その上、寄付をしても何か特別な治療上の要求をしない事が記述された契約書に署名捺印を求められた。これでは手間取って寄付も集まらないだろう。寄付がネット上で完結するなどは夢のような話だ。

でも、時間はかかっても、短くしてくれば良い方だが、福島県庁は酷い。一番災害復興に資金が必要な県だと思うが、寄附金を振込む段になって、当方の口座は公金専用で一般人は直接振り込めないで、コンビニのATM やクレジットカードか郵貯を使用してくれと言ってきた。挙げ句の果て、ふるさと納税制度が実施されて以来、我々は色々と努力してきたと言い訳を述べだした。岩手県も宮城県も直接振込可能なのに、何故こうなるのだろうか？ 結局、銀行で預金を引き出し郵便局へ行く羽目となった。

愚論はこれで終わりますが、組織のリーダーは細かいことは部下に任せている、と豪語していたのでは、優れた組織はでき上がらないと思います。小さいところに目が行き届かないリーダーは、大き

な問題にも気付くのが遅れて、手遅れになるものです。筆者は日本には沢山の神様がいますので「神々は細部に宿る」と複数にして使っていましたが、米国には「悪魔は細部に宿る」という言い方があるそうです。基本的に意味するところは同じで、細部だからと侮っていると落とし穴に落ちる、と云う事だそうです。ご興味のある方は下記をご覧ください。ここでも氏名の事に触れています。

<https://amiens2009.tumblr.com/post/21491639446/悪魔は細部に宿るというアメリカの言葉がある>

以上

2019/7/11

令和元年度経友会総会・講演会・懇親会のご報告

2019年6月15日（土）14時30分から、大岡山キャンパス西9号館311号室にて、「令和元年度 経友会（経営工学系同窓会）」が開催され、昭和30年代卒業の大先輩から平成20年代卒業の若手会員、現役の学生の皆さんまで、総勢40数名の方々が集いました。

1. 令和元年度経友会総会

総会は、川崎会長（昭和50年卒真壁研）の司会・議長で開催・進行されました。まず平成30年度の活動報告が、川崎会長および向井一幸副会長兼CF0（昭和48年卒小林研）から以下の項目について報告されました。

- 1). Web 経友会誌発行 2). 経友会HP保守・運用 3). 会員拡大 4). 会員情報管理環境改善
- 5). 講演会・工場見学会 6). 蔵前工業会との連携 7). 東京工業大学・経営工学系との連携
- 6). 平成30年度活動総括

<総会報告風景>



続いて、平成30年度決算報告が向井副会長兼CF0から行なわれ、西江監事（昭和48年卒市川研）からその決算内容に問題がないとの監査報告があり、平成30年度決算は承認されました。

さらに令和元年度役員及び事務局と組織体制について、以下の通り提案があり、承認されました。

<令和元年度役員>

会長：川崎保美（留任、昭和50年卒真壁研）

副会長：向井一幸（留任、昭和48年卒小林研）、沓野龍夫（留任、昭和52年修真壁研）

幹事長：山品博史（留任、昭和 52 年修小林研）

監事：飯田勝彦（留任、昭和 37 年卒松田研） 西江誠（新任、昭和 48 年卒市川研）

事務局：経友会担当教員 経営工学系准教授 青木洋貴

次に、現在経友会が抱える課題や令和元年度活動の重点、および経友会会則変更についての提案が川崎会長から、令和元年度収支予算案について向井副会長兼 CFO から説明があり、討議を経て全会一致で承認されました。

（総会資料については今後経友会 HP に掲載しますのでご参照ください。パスワードが設定されていますがご不明の方は事務局へお問い合わせください）

2. 講演会

引き続き講演会では、トランスコスモス(株)常務執行役員 福島常浩様（S55 卒、S57 修黒澤研）から、「変わるマーケティングと新市場創造～経営工学系人材のポテンシャル～」

という演題で講演して頂きました。

福島様にはメディカル・データ・ビジョン(株)取締役副社長時代に Web 経友会誌第 12 号（2017 年春号）にも、「医療という産業にも経営と工学の光を」というテーマで寄稿して頂いております。

＜福島様による講演＞



講演では、マーケティング分野における環境変化と新市場創造についての方向性の提案など斬新さを感じる示唆に富んだ内容で、参加者からも好評でした。また経営工学を学んでいる皆さんには、今まさに様々な分野で活躍の場が広がっている、というメッセー

ジもあり、もっと多くの現役学生諸君に聞いてもらえればよかったと感じています。

今回講演を引き受けて下さった福島様には、この場をお借りし改めて御礼申し上げます。
(講演資料については今後経友会 HP に掲載しますのでご参照ください。パスワードが設定されていますがご不明の方は事務局へお問い合わせください)

3. 懇親会

その後、学生の皆さんに協力して頂き、西9号館6階で手作りの懇親会を行いました。
また飛び入りで若手の女性会員も加わり今自分達が会社で取り組んでいる仕事を紹介したり、大先輩から若手OBまで楽しくコミュニケーションをとることができました。

<若手会員を囲んで>



今回の総会では経友会事務局をはじめ学生の皆さんに多大なご協力をして頂きました。
心からお礼申し上げます。OBの方々から現役で学んでおられる学生の皆さんまで、皆が
楽しく集うことができる活動をこれからも心掛けていきたいと思います。今後ともご協力を
をよろしくお願い致します。

経友会 川崎保美記

編集後記

WEB 経友会誌編集委員長

1981年卒 安田健一郎

秋晴れの爽やかな季節となりましたが、皆さんはいかがお過ごしですか。

秋はスポーツをやるにしても観戦するにしても良い季節ですね。

今朝は世界陸上の50km競歩で鈴木雄介選手が金メダルを、ラグビーWカップではアイルランド相手に金星をあげるなど、日本人選手の活躍のニュースは明るく元気になります。これから来年のオリンピックに向けて大いに楽しみであります。

さて、私ですが、夏は毎年、営業成績が落ちるのですが、今年はそれが顕著でして、ようやく心身ともに仕事モードに切り替わり、仕事の秋にしようと、、（せざるをえない、、）という今日この頃です。

今回も経友会誌を発行できましたこと、ご寄稿頂きました方々に厚く御礼申し上げます。

<事務局からのお知らせ・トピックス>

◆ 10月5日開催 秋の講演会

◆ 次号 WEB 経友会誌 2020年春号 4月発行予定

■経友会の入会手続き

【正会員】

- ① 入会申込書にご記入の上、メール (keiyukai@titech-keiyuukai.jp) に添付いただくか、
郵送にて事務局（住所等、詳細は下記）宛にお送りください。

注：該アドレスの@の前の keiyukai と@の後の keiyuukai では、u の数が
1つと2つで違うことに、ご注意ください。

- ②①にて事務局へご連絡後、下記のいずれかの方法で、入会金 5,000 円をご入金下さい。

- ・ 経友会事務局へ直接お持ち込み
- ・ 銀行振込 みずほ銀行 大岡山支店 普通 1412325 東京工業大学 経友会
- ・ 郵便振替 ＊事務局にお知らせくだされば振替用紙をお送りいたします。

【学生会員】

2,000 円をお持ちになって事務局にてお手続きください。

■ご住所・メールアドレス等の変更手続き

ご連絡先等の会員情報に変更がありましたら、どうぞ事務局までご連絡ください。

■経友会へのご寄付について

1 口 1000 円 で申し受けております。（1 口からできます） ご協力を宜しくお願い致します。

- ・ 経友会事務局へ直接お持ち込み
- ・ 銀行振込 みずほ銀行 大岡山支店 普通 1412325 東京工業大学 経友会
- ・ 郵便振替 ＊事務局にお知らせくだされば振替用紙をお送りいたします。

お手続き受付・お問い合わせ先

〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1

国立大学法人 東京工業大学 大岡山キャンパス

工学院 経営工学系

経友会事務局（西 9 号館 4 階 433 号室）

keiyukai@titech-keiyuukai.jp